

# 「学校が地域の居場所に変わったら…!？」

## 〈事例から学ぶ〉～市民たちと学校、ワクワクしあう関係のススメ～

学校が、もっと市民に開かれた場所であったら、そこはどんなに貴重な地域の財産となるのでしょうか。そうは願っても学校には管理責任があるから、市民主体での開放などムリ…そんなふうに思っていないですか？

ところを見つけました！市民が本当に自由に学校を活用している地域を！信じられないような20年間の実践は、市民たちが門を叩いたところから始まりました。

学校と地域の関係を、少し先行く事例から考え、成功の秘訣を探ってみませんか。

住民と一緒に  
造った校庭の  
自然観察園

お父さんたちが  
造った遊具で  
遊ぶ子どもたち

なんと365日、朝9時から  
夜9時まで住民が自由に  
使える余裕教室を活用  
したコミュニティルーム

住民が授業や  
行事に参加して  
子どもと交流

学校の授業や行事を住民が支え、コミュニティルームで行われる住民のサークル活動に子どもたちが顔を出す。学校を中心に大人と子どもが集い、自然にみんなが顔見知りになっていく。学校と地域が子どもたちを育て、少子化時代の大家族であるまち。あなたのまちはどうですか？ぜひ、参考にしてください。

●日時：2009年2月8日（日）13:00～16:00

●場所：新宿区立津久戸小学校

※このプログラムは、メイン会場ではなく、  
新宿区立津久戸小学校で行います。

●出演：岸 裕司（きし ゆうじ）さん

学校と地域の融合教育研究会副会長  
習志野市秋津コミュニティ顧問

●定員：30名

●参加費：1,000円

◎一度お支払いいただくと、フォーラムの  
他のプログラムへの参加もできます

●主催・申込：  
東京ボランティア・市民活動センター

TEL 03(3235)1171

FAX 03(3235)0050

<http://www.tvac.or.jp>

